

保育者養成校における保育内容「表現」のオンライン授業 —With コロナでの授業形態および教材の検討—

松井典子*, 高橋仁美**
滋賀短期大学 幼児教育保育学科

Online Classes in Expression Practice at a Nursery Teacher Training Institution

Noriko MATSUI*, Hitomi TAKAHASHI**

Department of Early Childhood Care and Education, Shiga Junior College,

抄録：2020年度の「総合表現Ⅰ」は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、全てオンライン授業に変更し実施した。2020年度の「総合表現Ⅰ」では、平時の「総合表現Ⅰ」の授業内容を踏まえ、コロナ禍において自宅（下宿）で「表現」に関する知識や実践をオンラインで取り組めるよう担当教員で授業内容を検討した。本稿では、コロナ禍において新しく取り入れた授業内容やICT機器を活用した教材を紹介し、Withコロナに対応できる授業形態および教材を検討する。

キーワード：表現，音と身体表現，オンライン授業，With コロナ，教材

1. はじめに

2020年度、前期開講科目「総合表現Ⅰ」は、新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた緊急事態宣言の発出に伴い、全て授業をオンラインで実施した。当該科目の履修生は、1回生である。

本科目で履修生は、乳幼児の表情、身振り、しぐさ等の表現行為から、身体の動きや音とことば、音とリズムを中心とした表現までを総合的に捉え、豊かな感性と創造性に深く関わる領域「表現」をもとにさまざまな要素を加えながら、演習の中で幼児の表現の特性を学修する。さらに、「表現とは何か、表現は保育の中でどのような意味を持つのか、表現を育むとはどのようなことなのか」を基礎的な演習に取り組みながら学び、その中で保育者の役割を考え、基礎的な指導力を養うことを授業のねらいとしていた。2020年度は、2018年度に報告した保育内容領域「表現」の授業内容に則り、音と身体を融合した表現に着目し、発表の機会を設け、実践的な学びができるよう授業を計画していた¹⁾。

2020年度の「総合表現Ⅰ」では、平時の「総合表現Ⅰ」の授業内容を踏まえ、コロナ禍においても自宅（下宿）で「表現」に関する知識や実践をオンラインで取り組めるよう担当教員で授業内容を検討した。

E-mail: *n-matsui@sumire.ac.jp **滋賀短期大学非常勤講師

本稿では、コロナ禍において新しく取り入れた授業内容や ICT 機器を活用した教材を紹介し、With コロナに対応できる授業内容や方法について考える。

2. オンラインによる「総合表現 I」の授業について

2.1 授業形態と授業計画

履修希望者が多数であったため、リアルタイム型ではなく、オンデマンド型のオンライン授業を採用した。授業は全て Google Classroom を通じ、授業レジュメの配信と動画配信、あるいは先述の2つの方法を併用したオンライン授業を実施した。

オンライン授業においてもできる限り、当初の授業計画を踏襲し、授業レジュメ及び資料の配信と動画による実践課題と体験課題をできる限りバランスよく配置し、授業進行に努めた(表1)。本稿では、表1の授業内容に記載した【実践】と【体験】を次のように定義し、分類した。【実践】とは、授業レジュメ等で知識を修得し、内容を理解し、添付動画とともに課題に取り組むこととし、【体験】とは、授業レジュメ等をもとにモノやことを介し、感じ、考え創造(想像)する課題に取り組むこととする。

学生の理解度を確認するとともに、双方向の授業を行う目的で、毎回の考察記録(授業の振り返り、気づき等)を提出すること、制作課題の場合は、考察記録に加え制作したモノを写真撮影し、Google Classroom へ提出するよう求めた。また、考察記録に書かれたコメントや質問に関して、Google Classroom の「ストリーム」で回答したり、次回の授業レジュメの冒頭に授業の振り返りとして質問の回答や学生の回答例(無記名)を掲載したりし、学生と教員間の双方向で意見交流がもてるよう工夫した。

表1 2020年度オンライン授業の計画

	授業内容	提出課題とその内容
第1回	オリエンテーション 授業内容、課題の提出方法 授業担当者の紹介とメッセージ	自己紹介文と授業への抱負を記入
第2回	「表現」とは 音楽に合わせて身体を動かす活動	授業レジュメを読み、考察する
第3回	リトミックの実践(動画)【実践】	授業レジュメを読み、動画の視聴と実践、 考察記録
第4回	音と動きの融合 子育て支援講座の実践(動画)【調べ学習】	授業レジュメを読み、動画の視聴 考察記録と調べ学習

第5回	音を感じる 音マップの作成①【体験】	授業レジュメを読み, 音マップの記録
第6回	乳児の聴覚の発達 音マップの作成②【体験】	授業レジュメを読み, 音マップの記録
第7回	乳幼児の「表現」の特性 「表現」の発達過程(動画)	授業レジュメを読み, 動画の視聴 考察記録
第8回	乳児の音あそび(動画)	授業レジュメを読み, 動画の視聴 考察記録
第9回	乳幼児期の運動感覚の発達を学ぶ (動画)【実践】	授業レジュメを読み, 動画の視聴と実践 考察記録
第10回	「心と身体ストレッチ」 簡単エアロビクスに挑戦 表現方法を学ぶ(動画)【実践】	授業レジュメを読み, 動画の視聴と実践 創作活動, 考察記録
第11回	「心と身体ストレッチ」を正しい姿勢で 行う 乳幼児に効果的なストレッチ・リズム感に ついて学ぶ(動画)【実践】	授業レジュメを読み, 動画の視聴と実践 考察記録
第12回	「心と身体ウォーミングアップ」 乳幼児に必要な支持系の筋力を強化する 体操 「体幹」身体を支える支持系の筋肉につ いて学ぶ(動画)【実践】	授業レジュメを読み, 動画の視聴と実践 考察記録
第13回	音のイメージを想像する 音を作ろう【体験】	授業レジュメを読み, 「サウンド・ワーク」 ²⁾ の実践, 考察記録
第14回	身近な音を楽しむ楽器づくり【体験】	授業レジュメを読み, 楽器の考察記録
第15回	「総合表現Ⅰ」の振り返り 第14回で制作した楽器を使った楽器あそ び(音源付き)【実践】 2016年度「総合表現Ⅰ」の発表会につ いて(動画)	授業レジュメを読み, 音源に合わせて楽器 あそび, 動画の視聴, 考察記録

2.2 ICT 機器を活用した教材作成

授業レジュメは、パワーポイントで作成した。パワーポイントは、文字による説明に加え、写真や図解等を引用し、提示した。動画は、オープンリソースからの引用、筆者らが担当分野を实践（ピアノ演奏・身体表現）し、タブレットやビデオカメラを用い動画撮影したものを YouTube にアップロードし、Google Classroom に添付し、配信した。動画の編集は、ムービーメーカーや Windows のソフトウェア「フォト」を活用した。どちらのソフトも写真、動画、文字（字幕）、音声を入れて、1つの動画を完成させることができるので教材作成に大変役立った。

2.3 授業内容

コロナ禍のオンライン授業の一例を紹介する。表1の授業内容で示した【実践】、【体験】および新しく取り入れた第4回「子育て支援講座の实践」における【調べ学習】の授業内容と課題内容を取り上げる。学生は、主にスマートフォンを使用していることを念頭に置き、コロナ禍において自宅（下宿）で学修可能な内容および教材とした。

2.3.1 実践課題

第3回の実践課題を紹介する。第2回は、第3回の事前学修とし、音楽に合わせて身体を動かす活動についてパワーポイントによる解説を行った。この中で、リトミックを取り上げ、その歴史と教育目的、リトミックの3つの要素（リズム運動、ソルフェージュ、即興）について資料をもとに紹介した³⁾。この学修をもとに第3回は、リズム運動、即時反応（Go and Stop）そして音を耳と心でよく聴くという課題を出した。身体全体で目に見えない音を自由にイメージし、表現することを実践すべく、筆者がピアノ演奏を動画録画し、実践例を字幕で示したものを「フォト」を用いて編集し、学生に配信した（写真1、2）。実践のポイントとして、音をよく「聴く」→感じる（考える）→動くことを解説し、常に子どもと実年齢を行き来し、感じ考えながら取り組むことを課題とした。提出課題は、実際に動画をもとに実践した時に感じたことや気づいたことを記述するよう求めた。

写真1 第3回リトミックの实践①



写真2 第3回リトミックの实践②



第 9 回から第 12 回は、保育者として子どもたちの動きを育むことができるよう音とともに身体を柔軟に動かしたり、ストレッチをしたり、リズム感を養うことをテーマとした。筆者らがピアノ演奏と身体表現をそれぞれ分担し、平時と同様の授業内容を動画録画し、ワンポイントアドバイスを字幕（写真 4, 5）とパワーポイント（写真 3）による資料で示した。楽譜 1 は、「音楽」の授業テキストから、乳幼児が大好きな童謡を歌いながら、股関節周囲のストレッチを促すものである。本テキストには、楽譜と図解で歌にあわせた身体の動かし方を解説しているのので、テキストを見て動きを確認することができる。テキストで身体の動きを理解し、動画を視聴しながら一緒に身体を動かし、活動に対する考察記録を提出課題とした。

写真 3 第 11 回授業レジュメ

2)正しい姿勢で、効果的なストレッチ (動画)

乳幼児が大好きな曲で歌いながらできる、股関節周囲のストレッチを行います。ゆっくり、のびのびと大きな動作で、股関節を開きます。股関節に刺激を与えると、下半身の血行が良くなり、運動神経系も活発に動き、運動機能も効果的に動きます。

音楽 I のテキスト「子どもの音楽表現・うたあそび」から

①ぞうさん P58～59

注：音中は丸めず、痛くない強度で、ゆったりと行う

②めだかの学校 P96～97

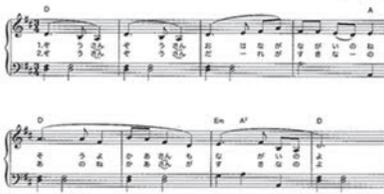
注：手の先、指の先は、メダカの動きのイメージで、細かく動かす



楽譜 1 テキスト⁴⁾から「童謡と身体表現」

ぞうさん

詞：まごゆづり 曲：伊藤雄



ストレッチ4種

①ぞうさん (2回くり返し)

②めだかの学校

③なまのよ

④ぞうさん

⑤めだかの学校

⑥なまのよ

⑦ぞうさん

⑧めだかの学校

⑨なまのよ

⑩ぞうさん

⑪めだかの学校

⑫なまのよ

⑬ぞうさん

⑭めだかの学校

⑮なまのよ

⑯ぞうさん

⑰めだかの学校

⑱なまのよ

⑲ぞうさん

⑳めだかの学校

㉑なまのよ

㉒ぞうさん

㉓めだかの学校

㉔なまのよ

㉕ぞうさん

㉖めだかの学校

㉗なまのよ

㉘ぞうさん

㉙めだかの学校

㉚なまのよ

㉛ぞうさん

㉜めだかの学校

㉝なまのよ

㉞ぞうさん

㉟めだかの学校

㊱なまのよ

㊲ぞうさん

㊳めだかの学校

㊴なまのよ

㊵ぞうさん

㊶めだかの学校

㊷なまのよ

㊸ぞうさん

㊹めだかの学校

㊺なまのよ

㊻ぞうさん

㊼めだかの学校

㊽なまのよ

㊾ぞうさん

㊿めだかの学校

58

写真 4 第 11 回童謡と身体表現の動画①



写真 5 第 11 回童謡と身体表現の動画②



2.3.2 体験課題

第5回の授業内容は、音を感じることを、自然の音への気づきと心の動きを感じることをテーマとした。子どもは、生活の中でさまざまなモノに出会い、心を動かしながら感性を育てていることを事例を挙げ示した。そこで環境としての音に気づく「音マップ」⁵⁾の作成を体験課題とした。本学のキャンパスマップ(写真6)をGoogle Classroomに添付し、キャンパスマップを見ながら、指定された建物の周り(外)を散策し、音の記録をとる。記録する内容は、①日時・天候、場所、②聴こえた音(具体的に聴こえたモノの音とその音をオノマトペで表現)、③その音を聴いて感じたことである。

第5回は、緊急事態宣言が解除され、徐々に対面授業が開始された頃を実施した。入学式後、ほとんど登学する機会がなく、課題の「音マップ」を作成することでキャンパス内を探索し、建物と教室の場所を知る時間となった。第5回の提出課題は、キャンパス内の「音マップ」における気づきを踏まえ、第6回では、登下校における「音マップ」の記録を課題とした。

第13回の「サウンド・ワーク」の課題では、モノと身体動作のかかわりによって、さまざまな音を生み出すことを発見した。そこで、第14回は、身近なモノで音がでるモノを全て楽器ととらえ、楽器づくりを通して音を創造(想像)し、表現することを課題とした。この体験学修は、「モノと音との関係」を知り、つくるプロセスを楽しむことをねらいとした。今回は、ペットボトルを使ったマラカス作りを行った。この体験学修では、音がでる仕組み(身体動作)や音を鳴らすための工夫、形と音を組み合わせることの面白さを味わい、身体運動、聴覚、視覚、触覚を働かせ取り組むことをねらいとした。

制作したペットボトルのマラカスは、写真撮影し、Google Classroomのドキュメントに添付し提出させた。さらに、考察記録としてペットボトルの中に入れた素材や楽器の特徴、制作過程で気づいたこと、制作した楽器は、どのような動作でどのような音がするかをオノマトペで表現することを提出課題とした。

第14回の授業では、Google Classroomの「ストリーム」で学生の考察記録の一例を紹介し、共有した。

写真6 第5回「音マップ」滋賀短期大学キャンパスマップ⁶⁾



2.3.3 調べ学習

第4回の「子育て支援講座の実践」は、オンライン授業で初めて取り上げた授業内容となる。筆者らが取り組んでいる研究を学生に紹介した。内容は、未就園児とその保護者を対象とした子育て支援について、その取り組み、そして筆者らが考案した「音と身体運動」に着目した子育て支援講座のプログラム内容、プログラムのねらいである⁷⁾。動画は、講座の活動の一部を写真撮影したものを「フォト」で編集したものである(写真7, 8)。学生へ動画配信する際は、参考になるように写真に講座で使用した童謡曲のCDの音源を付けた。

提出課題は、授業レジュメを読み、動画「子育て支援の実践」を視聴した感想と学生の居住地域(下宿の場合は実家)で、どのような子育て支援活動が行われているか、インターネット等で調べることとした。今回初めて子育て支援を授業内容に取り上げたが、学生は、調べ学習で地域の子育て支援に興味・関心をもつことと同時に、子育て支援の具体的な実践例を示すことで、子育て支援のさまざまな形態や将来の支援の方法をイメージすることができたと考える。

写真7 第4回 子育て支援の資料①

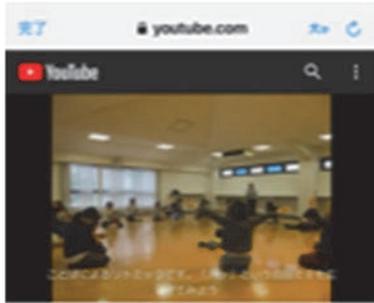
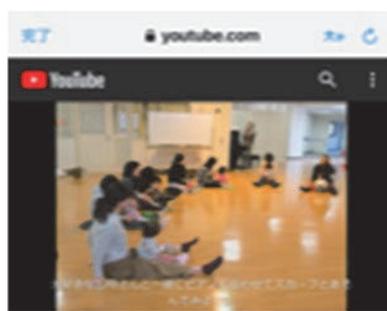


写真8 第4回 子育て資料の資料②



3. まとめ

本稿では、コロナ禍においても本科目のテーマである「身体の動きや音とことば、音とリズムを中心とした表現」の修得を目指したオンラインの授業内容と教材を報告した。オンライン授業において、学生を置き去りにすることなく、学生と教員が同じ動画を見ること(視聴の共有)、文章での交流を通して最終回まで継続した学びとなるよう試行錯誤し、授業内容を構築した。筆者らの研究活動の内容や成果を紹介する機会が得られたことも意義があったと考える。

特に、本稿で取り上げた「音マッピング」、「リトミックの実践」、「子育て支援講座における実践例の紹介」、「音と身体表現」、「身近なモノを使った楽器づくり」は、コロナ禍という非常時で行動制限を強いられた中で、学生が自宅においても主体的に実践及び体験することが可能な学修内容であったと考える。

子育て支援で実践している実際の内容(プログラム)の提示は、本科目の目指す音と身体表現が融

合した表現と合致した内容である。このことから、本科目の学修内容と学生の将来への現場における実践をイメージしやすく、具体的なねらい、子どもの発達を踏まえたプログラムの構成、配慮事項等を提供できたことは、成果として挙げられるだろう。

これまで、オンデマンド型オンライン授業の内容を述べてきた。しかしながら、本科目のようにさまざまな知識の修得をもとに「実践」および「体験」に結び付ける授業では、自己の表現を育むことや他者の表現を知ること、協働し1つの作品を作り上げること等、コミュニケーションをとり、人と考えを共有していく過程における学びや気づきが大切である。

特に、音と身体を融合した表現は、即興的な要素がある。その場のその時の音を感じながら身体で表現し、他者と表現を分かち合うことで、さまざまな感情や気づきが生まれる。さらに、対面で人と人とかかわり合い、交流をする学びは、将来、対人職である保育・教育に携わることを目指す学生にとっては、必要不可欠なことと考える。

With コロナを想定する中で、当面オンライン授業と対面授業を併用する形態が継続されるならば、本稿で紹介したオンデマンド型のオンライン授業を取り入れながら、対面での授業を組み合わせる方法が有効であろう。対面では、履修人数を制限し、感染症予防を考慮した内容を計画しなければならない。

オンライン授業においても双方向での ICT 機器の操作可能な学修環境を整備することも準備しておく必要がある。まさに、対面とオンラインのハイブリッド型の授業展開ができる効果的な教育方法を早急に考案しなければならない。そのためには、教員が ICT 機器の活用スキルを高めることと ICT 環境の充実を目指したハード面におけるシステム作りが急務となるだろう。

引用文献

- 1) 松井典子, 高橋仁美(2018), 身体表現と音楽表現の融合を目指して—保育者養成校における保育内容領域表現の演習授業を通して—, 滋賀短期大学研究紀要, 第 43 号, pp131-142
- 2) R. マリー・シェーファー, 今田匡彦(2013 第 2 刷発行), 音さがしの本, 春秋社
- 3) 石井玲子編著(2020), 表現者を育てるための保育内容「音楽表現」—音遊びから音楽表現へ—, 教育情報出版, pp. 56-60
- 4) 高橋仁美(2018), 子どもの音楽表現・うたあそび, 三学出版, p. 58
- 5) 文献 3) と同様, pp. 39-40
- 6) 滋賀短期大学「キャンパスマップ」<https://www.sumire.ac.jp/tandai/campus/campusmap/>
アクセス: 2020 年 11 月 20 日
- 7) 松井典子, 高橋仁美(2020), 音と身体運動に着目した子育て支援プログラムの開発, 大阪商業大学共同参画研究所紀要, 第 1 号, pp. 21-33

参考文献

- 1) 無藤隆 監修, 吉永早苗著(2016), 子どもの音感受の世界—心の耳を育む音感受教育による保育内容「表現」の探究, 萌文書林
- 2) 日本赤ちゃん学会監修, 小西行郎, 志村洋子, 今川恭子, 坂井康子編著(2016), 乳幼児の音楽表現, 中央法規
- 3) 日本赤ちゃん学会監修, 小西行郎, 小西薫, 志村洋子編著(2017), 赤ちゃん学で理解する乳児の発達と保育 第2巻 運動・遊び・音楽, 中央法規
- 4) 柚木たまみ, 松井典子, 水嶋育監修(2018), 子どもの音楽表現・うたあそび, 三学出版